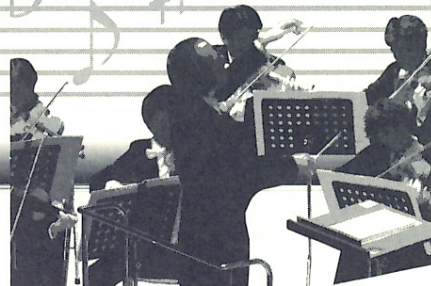


札響くらぶ

No. 52



編集・発行/札響くらぶ

064-0931 札幌市中央区中島公園1-15 札幌交響楽団事務局気付

メール: info@sakkyoclub.net

ホームページ: http://members3.jcom.home.ne.jp/sakkyoclub/

札響くらぶコンサート検討経過のご報告

第9回札響くらぶコンサート「札響と遊ぼう」

～感動を子どもたちとともに～

第9回目となる札響くらぶコンサートは、来年になりますが、平成23年11月5日（土）に開催することが決定し、指揮は我らのマエストロ尾高さんをお願いしました。現在新スタッフを加え札響くらぶコンサート検討会議を発足させ、開催内容や会員の皆さんとともにどのように進めていくか議論をしている最中です。今回はこれまでの検討の経過を報告させていただきます。

1. 札響くらぶコンサートは何故開催するの？

平成8年発足した札響くらぶは、平成11年に第1回札響くらぶコンサート開催し、その時に目的としたことは、①会員によるチケット販売を通して、札響の素晴らしさを知って応援する市民を沢山作りたい、②子供達をはじめ次世代の方たちに札響をキタラで聴いて札響ファンを育成したい、ことでした。

平成15年に開催した第5回目の西本智実さん指揮「シェエラザー

ド」で2,000人満席を達成しました。その直後、上田札響くらぶ会長が札幌市長になり、札響くらぶは「子どもたちにキタラで札響を聴かせて欲しい」と政策提言をし、平成16年キタラ・ファーストコンサートとして実現しました。以来、音楽監督の尾高さんか正指揮者の高関さんの指揮で世界一のコンサートホールと名高いキタラで札響を何と10万人の小学生6年生が聴いています。こんな政令都市は他にありません。尾高さんも国内はもとより世界でこの取り組みを

紹介していただいています。

その後休会をはさんで、新たな役割として、子供達に1回きりではなくもう一度聴いてもらうことで、もっと心に深く刻んでもらおう、音楽の力でもっと心を豊かにしてもらおう、と札

響くらぶコンサートを第2ファーストコンサートとして位置づけとして再開することとしました。

ただ聴いてもらうのではなく、この開催を札響くらぶ会員と多くの市民・企業の創意を集めて支えたいと考え検討しております。札響くらぶ会員をはじめ、札幌交響楽団、指揮者、楽団員が一体となってこそ実現できる取り組みといえます。

2. 第9回の札響くらぶコンサートは今までにないコンサートになりそう！

検討会議で検討した内容をマエストロ尾高さんに、第1部は、和やかな雰囲気のもと、今回のメインプログラムとして札響のコンマスによる「メンデルスゾーン・ヴァイオリンコンチェルト」で札響のよさを満喫したいと提案しました。第2部は、恒例の「札響と遊ぼう」と題して指揮者にチャレンジしていただきますが、演奏曲をあらかじめ公表し練習してきてもらうのはどうか話し合っています。第3部は、皆さんが楽しんで聴ける曲を中心に考えています。



第5回札響くらぶコンサート（指揮：西本智実）

このような提案し、相談をしたところ、この線でいきたいと賛同を得ました。詳細プログラムはこれからですが、「札幌コンマスや各パートの首席クラスでのコンチェルトは続けたいね」との逆提案でマエストロ尾高さんがこのコンサートにかけの思いが伝わりました。そして第2のサプライズはコンサート開始前にありそうです。そこはお楽しみにしてください。そのあとは尾高さんと札幌団員さんを囲んでの交流会です。サイン



第7回札幌響くらぶコンサート(ロビーにて)

会や写真撮影など、どんなトークが飛び出すやら今から楽しみです。

3. 札幌響くらぶコンサートは会員一丸となって成功させたい!

第9回札幌響くらぶコンサートは、中学生で吹奏楽や合唱等音楽に関わっている方を優先して200名の招待を実現したいと考えています。また、外国人留学生で札幌に住ん

でいる方も50名の招待も検討しております。次世代の札幌響リスナー育成と外国の方々にも札幌響とギターを楽しむ、その素晴らしさを母国に伝えてもらえたらと思っています。

毎日を忙しく働いている企業や団体等の方々にも札幌響を楽しんでもらい、気分をリフレッシュしてもらいたいと思っています。この取り組みを実現するために、企業や団体等の方々にもご協力いただきたいと思っています。そのためにも札幌響くらぶ会員が一丸となって市民に声を掛け、企業に声をかけることによって実現します。来年の4月には会員先行でチケット予約開始します。実行委員会ではそれまでに準備を整えます。会員の皆さんの知恵と



第6回札幌響くらぶコンサート(指揮:西本智実) ©SATO Masahide

情報をいただきながら進めていきます。また会報や会報号外で準備状況をお知らせします。ご理解とご協力を心からお願いします。

札幌響くらぶコンサート検討会議
座長 西川吉武
(札幌響くらぶ副会長)



第8回札幌響くらぶコンサート(指揮:飯森範親)

「茶話会」を試行しました。

9月18日(土)B日程終了後、ギターレストランでの開催を試みましたが、満席で予約もできず、ホテルライフオート札幌に移動して試行しました。

ギターレストラン以外のホテルを会場として開催することは



可能ですが、会員や楽員、札幌事務局が演奏会終了後集まり、気軽にたむれる一時の場所として続けられるかどうか、再度検討する必要がありますのでないでしょうか。

茶話会は、スタッフ9名とマーラーを聴きにきたという山響ファンクラブの佐藤彰さんを含めた10名が参加し、「弦と管のバランスがとてもよかった」「独唱、合唱とオーケストラが見事にかみ合っていた」「ホルンの9人編成で常にベースをリードしていた。首席の橋本さんはさすが…」「トランプット首席の福田さん、副の松田

さんの力を見せ付けられた」「2時間近い長い演奏だったけれど、すっかり引き込まれ、気がついたら終わっていた」「残念なのは演奏が終わったとたん拍手が起きたこと。もう一呼吸が待つて欲しかった。余韻も演奏の一つだということを知ってほしい。」など感想が話されました。

札幌って素晴らしいな!って、改めて感じさせられた時間でした。

(事務局長 武藤義典)

キタラ・ファーストコンサートを見学して来ました

晴天に恵まれた平成22年9月27日月曜日、キタラ・ファーストコンサートを見学して来ました。南北線に乗り換えるためにホームで地下鉄を待っていると、色つき帽子をかぶり、先生らしき男性に引率された十数名の小学生らしい一団がおしゃべりをしている様子が目に入りました。「この子達もしかしてキタラファーストコンサートに行く子かな…」と思いつつ到着した地下鉄に乗り、中島公園で下車すると、先ほどの小学生らしき子達も下車していました。



27日午前の部のキタラ・ファーストコンサート (写真撮影：武田博治)

そのまま改札を抜け、中島公園出口から公園入り口近くを見るとイチョウの葉がほんのりと色づいていました。季節は秋だなあと感じながらのんびりと歩いてキタラに向かうと、キタラの入り口にはすでに色つき帽子をかぶった小学生が2列に並んで入場を待っていました。ちなみにこの日、キタラの“本日の公演”は紙が貼ってあるだけでした。不思議に思ってよく見ると、“故障中”の3文字が…。何もこんな日に故障しなくても、と思いつつ中に入るのを止められやしないかどきどきしながら自動ドアを通りました。

チケットを受け取り、小学生が全員入場するのを待ってから入場しました。定期演奏会ではざわざわという感じの大ホールが、ワイワイガヤガヤという言葉がぴたりくる賑やかさでした。ホールの

中を駆け回る子もいて、ずっとこのままの状態だったらどうなってしまうのだろう、と本気で心配しましたが、それもコンサートが始まると杞憂に終わりました。きちんと席に座り、指揮者の高関さんの話をきちんと聞いていました。プログラムはウィリアム・テル序曲など音楽の時間に聞いた覚えのある曲でした。曲の合間に楽器紹介がありました。それぞれの楽器紹介の後、どんな音がするのかを聞いてもらうために曲のワンフレーズを演奏していました。この日は楽団員のご子息がファーストコンサートに来ていた様子で、該当する楽器の紹介の時には札幌から拍手が起きていました。

威風堂々では両手でリズムを取っている子や、引率の教師らしい女性が高関さんの指揮を真似して指を動かしていました。アン

コールはラデツキー行進曲で、おなじみの手拍子を全員で行ないました。全員高関さんに集中しており、“小さく(叩く)”“大きく(叩く)”“(叩くの)やめ”の合図に従って手拍子をしていました。

全体を通して、ただ曲を聴くだけではなく、途中で“翼をください”を全員合唱していました。コンサートに来た小学生が楽しめるように工夫されたプログラムだったと思います。プログラムには尾高音楽監督からのメッセージが記載されていました。小学生向けにとってもやさしく書かれたわかりやすい文章でした。

今の小学生はコンサートホールでクラシック音楽を聴けるのか、うらやましい、もう少し遅く生まれたかった、と思いつつ帰途につきました。

(木村)

指揮	高関 健 (9/27-28-29) 高橋 忠朗 (11/29-30)	管絃楽	札幌交響楽団
協力	コフレール・アメリカン		
2010.			
9/27	午間部 10:30開演 午後部 13:45開演		
9/28	午間部 10:00開演 午後部 13:45開演		
9/29	午間部 10:00開演 午後部 13:45開演		
11/29	午間部 10:30開演 午後部 13:45開演		
11/30	午間部 10:00開演 午後部 13:45開演		

札幌コンサートホール Kitara 大ホール
主催：札幌コンサートホール・札幌市芸術文化財団
http://www.kitarara-sapporo.or.jp

2010年度のプログラム (表紙)

第4回 JOFC 総会 in NAGOYA'10が開催される

～札幌くらぶからスタッフ、会員10名が参加しました～

日本プロオーケストラファンクラブ協議会（JOFC）第4回総会は、名フィル・ファンクラブの主催で、名古屋市のNHK名古屋放送センター6階大会議室で午後1時から、札幌くらぶ、仙台フィルハーモニークラブ、山響ファンクラブ、群響ファンズ、石川県立音楽堂楽友会、広響フレンズと主催者名フィル・ファンクラブの7団体の54名が参加して開催され、次第にしたがって名フィル・ファンクラブ代表幹事山田博子さんの司会で次のとおり進行されました。

1. 開会のあいさつ

会長の上田札幌くらぶ会長が公務の都合で参加できず、副会長の工藤仙台フィルハーモニークラブ会長が「振り返れば2006年札幌で設立総会があり、2007年第1回の総会を仙台で開催し、翌年は山形で、昨年は高崎で、そして第4回の今年は名古屋で開催されることになりました。

JOFCはただのお楽しみクラブではなく、全国の同好の士が手を携えている様々な問題に対処し、自分たちの応援する全国のオーケストラの発展を考え、その演奏を聴き、そして地元を持ち帰り活動に生かしていく…、回を重ねるごとにJOFCの活動に品質が高まっていると感じています。

名古屋の開催にあたり、名フィル・ファンクラブの皆様にご尽力いただき、おかげさまでこのような会を催すことができます。この総会はもちろん、この後の演奏会、



開会挨拶する工藤副会長（SPC会長）

懇親会を含めて一日皆様と楽しみたいと思います。よろしくお願いたします。」とあいさつされました。

2. JOFC 会則の改正案について

現行の運営委員会に関する規定は、運用が現実的に難しいので廃止し、会長、副会長など役員を選任方法、総会の位置づけ、役員会、幹事会の会議の設置と電子媒体での会議の開催などを新たに規定する改正趣旨を武藤事務局長（札幌くらぶ）が説明し、承認されました。

3. 役員改選

主催者事務局として石井名フィル・ファンクラブ代表幹事から役員候補者を推薦したいと提案し、承認され、役員が次のとおり選任されました。

会長 上田文雄（札幌くらぶ会長）

副会長 工藤一郎（SPC会長）

× 加藤 聡（山響ファンクラブ顧問）

× 小野善平（群響ファンズ会長）

続いて、幹事の指名が工藤副会長から行われました。

幹事長 西川吉武（札幌くらぶ副会長）

幹事 高橋 望（SPC事務局長）

× 保科 誠（山響ファンクラブ事務局長）

× 石守 晃（群響ファンズ事務局長）

× 静岡俊郎（石川県立音楽堂楽友会副代表幹事）

× 石井慎一（名フィル・ファンクラブ代表幹事）

× 谷 邦彦（広響フレンズ代表）

4. 各クラブの活動報告

北から順にということで札幌くらぶから始まりました。

札幌くらぶ（武藤事務局長）

会報「札幌くらぶ」が'97年9



会則改正案の説明をする武藤事務局長
月刊以来'10年3月で50号となった。発刊継続の危機などのエピソードや「FAN CLUBの和」が不定期の連載記事として始まった翌年の'02年12月にSPCとの交流会が実現、これが今のJOFC発足のきっかけとなったこと、昨年12月の文科省関連の事業仕分けに対するパブリックコメント応募の呼びかけによる結果の公表を報告した。

SPC（工藤会長）

恒例行事として「おもしろセミナー」「茶話会」「新規会員に対するCDプレゼントキャンペーン」「演奏活動賛助金の贈呈」の実施、会報とSPC通信の発行、今年9月に迎える発足15周年記念パーティーの準備と「ペアチケットプレゼントキャンペーン」を実施していること、SIMC、せんくら、アフィニス夏の音楽祭などを通じてYFCとの交流が活発化していることを報告した。

山響ファンクラブ（山口龍也事務局長）



JOFC 役員（中央席）と各クラブの活動報告発表者（左右席）



「第4回 JOFC 総会 in NAGOYA」に参加した各クラブの方々

会員の執筆参加、演奏会を楽しみ相互の結びつく場となるよう会報の充実を目指した。山響第200回定期演奏会終演後の祝賀会で譜面台25台を贈呈し、学校などでの音楽教室事業で使用されている。恒例の芋煮会、忘年会、ゲネプロ見学会なども予定どおり実施したが、ゲネプロ見学会では参加者の不振、11月、12月に偏っているイベントの分散化など全体として会員活動の活発化を図りたいと報告した。

群響ファンズ（石守事務局長）
群響ファンズ（群響を応援する

県民の会）の活動も今年で22年目を迎える。すみだトリフォニーホールでの地方オーケストラフェスティバルの群響東京公演応援バスツアーを実施、群響ファンのすそ野拡大策として小学4年から高校生を対象に毎回2席のシートを抽選でプレゼント、財団法人を目指す群響から群響グッズの販売打診を受けて決定した。また、念願のホール建設が決定したが、多目的ホールか専用ホールか決定できていない、と報告した。

石川県立音楽堂楽友会（吉川事務局長）
'88年にOEK友の会として結

成、'01年に音楽堂が開館、翌'02年に音楽堂を支援し、音楽文化を普及することを目的として「楽友会」が設立された。音楽堂には洋楽ホールと邦楽ホールがあり、楽友会はOEKファンクラブと伝統文化を支援する文化ボランティアの二つの性格を併せ持っていて、他の団体と違う活動形態です。しかし、OEK支援、音楽堂業務支援を継続していくには、これまでのボランティア団体で力不足であることを実感し、来年度から会費を徴収して新たな会員を募集、新たなスタッフを加えて活動の拡大

を図っていく、などこれまでの活動を含めて報告した。

広響フレンズ（佐藤幸一）

'98年に楽団支援を強化するために広島交響楽協会と楽団員により広響フレンズが設立され、楽団員との交流がスタッフ中心に具体化されたことにより、実質的なファンクラブと認識されてきました。しかし、国、自治体の協会への補助金削減などでフレンズ援助金が無くなり、また、演奏会を聴きに来る会員や定期会員が少ないなどの理由により、昨年、ファンサービスは協会が直接企画運営するとしてスタッフ体制を解散するとの提案が出され、ユニオンや会員などから疑問が続出、協会、フレンズ、ユニオンの三者の会談が数度持たれ、解散は変更できないが新ファンクラブができれば協力する、経過などを報告する協会主催の総会の開催するなどを決定、今回が広響フレンズとしての最後の報告となる、と報告した。総会は9月下旬開催を予定、来年は新しい体制で報告をできるようにしたい、と締めた。

名フィル・ファンクラブ（菱田富夫）

幹事が5名という少数数での活動で、会報はこの1年3回発行しているが、最新号は5月発行で既に4ヵ月が過ぎていてそろそろ発行しなければという状況です。主催のミニコンサートも3回の予定ですが3月に開催してから次の会場や楽員の予定、担当者の都合などで決まっていない、こんなこと

からエコバックを作成して会員、楽員へ配布して還元しました。今後の課題として、幹事の増員、楽団事務局との関係強化に取り組んでいきたい、と報告しました。

5. 名古屋宣言

「各地域に根ざしたオーケストラの存在は、私達の心のよりどころであるとともに、各地域における文化の発展に大きく貢献しているものと確信をしております。

したがって、各地域における音楽文化の更なる広がりを創るため期待するためにも、今まで以上にオーケストラをサポートすることを確認し、また、JOFC加盟団体の情報交換をより活発に行うことを宣言します。」と名フィル・ファンクラブから提案、採択されました。

6. 次期総会開催地について

音楽堂開館10年を迎えることから金沢で開催したいとの申し出があり、'11年の開催地は石川県立音楽堂楽友会主催で「金沢市」と決定しました。

7. 閉会のあいさつ

加藤副会長（YFC顧問）から「少し早めに終わるかなと思っていましたが、皆様の悩み、楽しみ、苦しみ、ホール、事務局との関係、団員との関係、指揮者との関係などと言い換えることができるのではと思いましたが、本当に悩み、楽しみを同じくする団体がこのような形で、年に一度集らさていただくことの幸せをこの時間で感じさせていただきました。



閉会挨拶をする加藤副会長（YFC顧問）

北海道・東北の三つのファンクラブが小さな気持ち、小さな準備で始めた活動がこんなに大きく膨らんで、事業仕分けのときはもう我々は十分にロビイストの活動ができると各地の行政に知らしめたと思える力がついてきたと思います。

総会の開催地もどんどん南下してきて来年は金沢、その次はもっと南下するのかなと期待させていただけるものと思っています。

この後はマーラーの5番が聴ける、素人だけドトラペッターとしては出だしのトランペットの演奏が楽しみ…」と締め、閉会し、第372回名フィル定期演奏会を聴くために、建物の2階で繋がっている愛知芸術文化センターへ移動しました。

（事務局長 武藤義典）

第4回JOFC(日本プロオーケストラファンクラブ協議会)総会に参加して

最高気温38.0度。この日（9月4日）の名古屋は、私がいまだかつて経験したことの無い暑さでした。土曜日の日中だというのに、街に人通りのなんと少ないことか。連日猛暑日に見舞われている名古屋の人たちは、日差しと暑さを避ける術をすでに心得ていたのです。名鉄名古屋駅から宿所である名古屋観光ホテルまで歩いて移動した私は、暑さに対していかにも無防備で呑気だったことになります。北海道に住む我々は、一定の暑さを越えるとかえって暑さに鈍感になるのではないのでしょうか。私はこの日の暑さと翌日の暑さ（36.1度）の違いを感じ取ることができず、二日間ただ「暑い」の一言でかたづけしていました。

さて、JOFCの総会、私は毎年この日を楽しみにしています。昨年は群響の高崎、一昨年は山響の山形、そして今年は名フィルの名古屋と三年連続で参加させていただきました。普段あまり聴く機会のない各地のオーケストラを生で聴くことができ、1泊2日の小旅行も楽しめる、私にとってはこれでもう十分なのですが、さらに、全国七つのオーケストラのファンクラブの方々と交流を深めながら音楽（オケ）談義ができるというのですから、これ以上の楽しみはありません。「千里を遠しとせずして」毎年出かけて行く所以もここにあります。

今回の名フィル演奏会は常任指揮者ティエリー・フィッシャー（スイス人）を迎えての「第372回定期演奏会」でした。曲目はメインがマーラーの5番、それと斉木由美の「二つの素描—独奏ヴァイオリンとオーケストラのために」（名フィルによる委嘱新作、世界初演）の二曲でした。演奏はもとより期待にたがわぬすばらしいものでした。特にアダージェットは深く心にしみて、ハープの音とともに長く記憶に残ることになると思います。

会場は愛知県芸術劇場コンサートホール。その名が示すとおりクラシック音楽専用のホールで、客席1800席、残響時間約2.1秒、パイオルガンを持った優雅で広々とした空間でした。このホールでは館内放送は一切かからなかったように思います。キタラで開演前に流されるような諸注意も前半が終わった後、休憩時間であることを知らせる放送も全くないのです。音楽に没入し、浸ろうとしている聴衆を慮ってのことと思われるのですが、この言わずもがなの放送から解放されたのと引き換えに演奏中プログラムやチラシなどが床に落下する音に何度となく心が乱されました。「コンサートホールでの放送、有りや無しや」に思いを致



懇親会開場で参加者を出迎えるフィッシャーさん

した3階A席でした。

蛇足ながら、名フィルのプログラムの表紙の裏には、次のような注意書きがありました。「早すぎる拍手やブラボーは、余韻を楽しみたいお客様はもちろん、出演者にとっても迷惑です。」我が意を得たり。これと「演奏中の大威張りの咳払い」とは是非とも遠慮していただきたいものです。演奏会のマナーとしてもう少し声高に呼びかけられてもよいのではないのでしょうか。

名フィルの定演は、札響と同様二回公演です。二日目のこの日は18:00頃終了、その後すぐに場所を移して懇親会となりました。冒頭、今回残念ながら公用（上海出張）のため、出席できなかった上田文雄会長のメッセージが、札響くらす副会長西川吉武さんによって読み上げられました。乾杯のあと、演奏を終えたばかりのフィッシャーさんとソリスト（ヴァイオリン）の植村太郎さんも駆けつけて会は大いに盛り上がりました。スピーチに立ったフィッシャーさんは、定演を無事終えた安堵感からでしょうか、通訳を戸惑わせるほど饒舌で、中身の濃い話してくれました。「音楽をとりまくメカニクが発達して、いつでもどこでも音楽を聴ける環境にあるけれども、そのような状況が進めば進むほど、一度限りの生演奏がますます意味を持つようになってくる」というような内容だったと思います。「一期一会」とも言うべき生の音楽との出会いとその魅力を我々へのエールとして贈りたかったのだと思います。



会長のメッセージを読み上げた西川幹事長

翌日帰国するというフィッシャーさんを会場で見送ったあと、各ファンクラブの自己紹介となりました。「おらがまちのオケ自慢」あり、「運営上の悩み節」あり、そして最後に来年の金沢での再会を約して、二時間あまりの立食パーティーもあつという間に終わってしまいました。

翌日は熱田神宮を参拝。さらに名古屋ドームでの野球観戦（中日—巨人戦）も試みましたが、チケット完売のため門前払いを食いました。

来年の金沢行きと名古屋再訪をほぼ心に決めて札幌への途に就きました。

（会員 村山 英朗）



上：名フィルと一緒に、中：参加メンバーの紹介。下：手羽先の山ちゃんでの二次会

「ニューキタラホールカルテットを聴いて」

この4人が奏でる弦楽四重奏（カルテット）を聴いてみたい。そんな札幌ファンの夢が実現したのが6月21日キタラ小ホールで行われたニューキタラホールカルテットの第1回コンサートでした。

札幌が誇る4人の弦のトップ、コンサートマスターの伊藤亮太郎さん、三上亮さん、ヴィオラ首席の廣狩亮さん、チェロ首席の石川祐支さんが弦楽カルテット組んで定期的に演奏会を開くというニュースを聞いた時の興奮は今でも忘れることができません。

4人の演奏はオーケストラの中でソロを演奏するとき、室内楽などの演奏会で各々聴いていましたが、4人が一堂に会して弦楽四重奏を定期的に演奏してくれると

は。予約日初日に予約しました。

当日のプログラムは3曲の弦楽四重奏曲。1曲目モーツァルト第14番ト長調（ハイドンセット第1番）、2曲目ショスタコーヴィッチ第1番ハ長調、3曲目チャイコフスキー第1番ニ長調です。

モーツァルトから始まった演奏は、4人から発せられる音の次元の高さを改めて感じ、期待通りの演奏に気持ちが次第に高揚。次に演奏されたショスタコーヴィッチには完全に引き込まれました。休憩を挿んで演奏されたチャイコフスキーまで作曲家の世界と音色を堪能した至福の演奏会でした。

このカルテットにショスタコーヴィッチはもの凄くマッチしてい



New Kitara ホールカルテット (写真提供：札幌コンサートホール)

るのではと思います。聴きながらショスタコーヴィッチの別の作品も（できれば全て）ぜひ聴いてみたいと思いました。ショスタコーヴィッチは今後も継続して取り上げてくれるようで、次回の演奏会では第3番が予定されています。

今回は2月27日。これから年2回のペースで開かれる演奏会が本当に楽しみです。（murakami）

トランペット奏者〔前川和弘〕さんのCD

『Trumpet Ave Maria』の感想

今年もセーターが恋しい季節が来た、涼しい風が吹き始めると編み針の触れるかすかな音と毛糸の玉が転がりながら小さくなっていく静かな夜が楽しい、そんな夜はショパンにしようか武満徹で行こうか、たまにはエリックサティもいいな、などとCDの棚を物色していると眼についたのが『トランペット・アヴェマリア』。あーこれこれこれですよ、前川さんのトランペットに今夜も痺れよう。

これを初めて聴いたときの思い出す。

CDを手にして「トランペットでアヴェマリア？それにオルガン？」

アフリカの太鼓とピアノとかマリンバと名前を忘れた変な楽器の

組み合わせの現代音楽を聞く機会が多いけれど、オルガンとトランペットって初めて聞くそれがアヴェマリアだって？、何だか想像出来ないなーと思いながら、理屈はともかく前川ファンとしては聴いてみなくては…

午後のまどろみに何気無く聞くトランペットとオルガンの響き、ナニ！ ガッパッと起き上がって「まどろみどころじゃないぞ…えー、なんて素敵なんだ、これは！」

うん、何かに似ているこの感覚は…？？

そうだマグロのカルパッチョを初めて食べたときの感じだ。

随分昔のことだけど、カクテルグラスの中に赤いものが何切れか

入っているそれにドレッシングがかかりハーブの緑が映えてウエイターが「マグロのカルパッチョでございます」と言った。

そーとフォークの先で口に持ってきてみればなんと舌もとろける絶妙な味。

よし今夜は、とりあえず白ワインを冷して置こう、マグロのカルパッチョにメインは何にしようかな？…

そんな事よりもう一度ソファーに寝そべって「トランペット・アヴェマリア」を聴こう。

それはそれは至福の午後でした。

聴覚味覚視覚の悦びは無限なのだとしみじみ思う。

何度聴いても飽きない音（CD）これは本物です。 鬨(あい)

『大平由美子ピアノリサイタル』を聴いて

8月23日午後7時20分過ぎに娘と二人でキタラに着き、少し待って会場の小ホールに入りました。最初は前から3列目に席を取りましたが、思い切って最前列の真ん中より少し右寄りに席を変えました。というのは、今日はオーケストラではなくピアノの独奏を聴くということで、少しでもステージに近いほうが音もよく聴こえるし、ピアニストの表情もよく見えると思ったからです。そのとおりでした。

ピアニストの大平由美子さんは、19年間ベルリン芸術大学で講師を勤められ、昨年から演奏の拠点を札幌に移し、そして札幌くらぶの会員にもなっていました。

開演時間を少し遅れてリサイタルが始まりました。オープニング



は、R. シューマンの森の情景、森の深い木の香りや朝靄が漂う様子が浮かぶ音がスタインウェイのピアノから流れ始め、目を瞑りながら聴くと、森の中で起こる様々な様子、そして森から出て行く様子が浮かんで消え、そして次がまた浮かぶというようにあつという間に9曲が流れ過ぎました。

一呼吸置いて、F. ショパンの二つのノクターン、幻想即興曲とバラード第3番、やわらかく美しい音色に包まれながら聴き、そしていくつもの玉が転がるようなテンポの早い曲、水がゆっくりと流れるような優雅な気分になれる曲、前半の約50分があつという間に終わってしまいました。

後半はF. シューベルトのソナタ第19番、ちょっと悲壮感に漂い

ながら聴きました。アンコールは2曲、大平さんが自ら編曲したというシューベルトの「白鳥の歌」からセレナード、そしてショパンの「別れの曲」でした。

ピアニストという体と大きき揺らして、酔うような表情で演奏する姿を思い浮かべますが、大平由美子さんは淡々とした姿勢で表情もあまり変えず演奏されていましたが、出てくる音はやさしくもあり、暖かくもあり、激しくもあり、表情豊かな演奏で、2時間すっかり引き込まれてしまい、時間が経つのを忘れたしまいました。

残念だったのは、集音マイクが客席に向いていて、演奏中にチラシの落とす音や咳を集音し、雑音となって最前列でもよく聞こえてくることでした。(M)

(写真提供：小室敏美)

札幌くらぶ会員証の特典

●札幌交響楽団のチケット

札幌交響楽団主催の定期演奏会、名曲シリーズ(S席のみ)のチケットが10%割引で、次のチケット取扱所で一般発売日より購入できます。購入される際に会員証を提示してください。

・キタラチケットセンター

(520-1234)

・大丸プレイガイド(221-3900)

・道新プレイガイド(241-3871)

・4プラプレイガイド(251-5574)
(平成22年度の価格)

・定期演奏会(カッコ内は定価。学生席の割引はありません。)

S席 4,500円(5,000円)

A席 4,050円(4,500円)

B席 3,600円(4,000円)

C席 2,700円(3,000円)

・名曲シリーズ(カッコ内は定価。A席、学生席の割引はありません。)

S席 3,600円(4,000円)

●テラスレストラン・キタラ

店内での飲食が10%割引となります。ただし、一部の商品を除きます。お支払いの際に会員証を提示してください。また、グラスワインのサービスがある場合もありますので、あわせて係員に会員証を提示してお尋ねください。

●キクヤ楽器店(狸小路3丁目)

全商品が店内に限り、10%割引となります。お支払いの際に会員証を提示してください。キタラ等の出店では既に割引価格となっていますので適用されません。また、楽器を購入される場合は係員に相談ください。

●ダイニング『イル・ネージュ』

(北区北12条西1丁目北12条パークマンション1F)

札幌くらぶと申し出て会員証を提示してください。シェフからの素敵な特典があります。

ご予約・お問合せは、011-717-2555まで。

北電ファミリーコンサート [4]



1977年4月に共演したイタリア、ミラノ・スファラ座の指揮者アルベルト・ヴェントゥーラ氏はこの時が初来日で新日本フィルの演奏会と札幌では滝川公演（3月25日）と4月1日の第52回「北電ファミリーコンサート」を指揮した。さすがに歴史のあるオペラ座の指揮者で日頃、大勢のスタッフを相手にしているらしく豪放磊落な性格の人だったが気も短かった。

滝川公演は私の車で一緒に行った。演奏会の最中に気象が急変して大雪になった。帰路、国道12号線は完全にアイスバーン状態になり行き交うトレーラーが左右から道をふさぎ、やむなく田圃のあぜ道の深い雪を掻き分けながら走った。クラッチ・ワイヤーに雪が入って凍り着きクラッチが動かなくなり2ndレバーのまま札幌まで帰って来た。札幌到着は深夜の2時近かった。車中で腹が減った我慢が出来ないと騒ぎ出し、

共演ピアニストの弘中隆氏から真っ黒に海苔で巻いたお結びをいただいた。気持ち悪がっていたけど無理矢理食べさせた。

真駒内の練習場に通うのに「札幌の地下鉄はゴムタイヤを履いて走っているだけけど」と言うと、乗ってみたい、と一緒に地下鉄で通った。地下街を歩いている時「札幌の人は皆音楽が好きなんだねー」と感に堪えない風に言ってくるので「どうしてそう思うの」と聞いたら、毎日地下鉄に乗るまでの通路でクラシック音楽が流されている、と答えが返ってきた。確かに地下街にはでJ. シュトラウスのワルツなどが流されていた。一瞬答えに窮したが、札幌の地下街は東京と違って歩行者の数も少なく静かなのでBGMがよく聞こえるのかも分からない「東京と比べると札幌の人はクラシック音楽好きが多いのかもね」と答えたものである。

札幌市民会館での「北電ファミリーコンサート」の当日、ステ-

ジ練習が終わってから、共演した声楽家とウマが合わず「歌手を替えろ、ミラノでは自分が言えば歌手は即座に替えられる」と開演寸前まで指揮者室で激しいやりとりをした。結局、ステージ衣装に着替える時間になってヴェントゥーラ氏は折れて表向き何事も無くコンサートを行った。オペラの国では指揮者の権限がこんなに強くて頑固なのか、と改めて認識させられた一幕だった。

同年4月28日の第53回には10年間の修道士生活から還俗した指揮者、黒岩英臣氏が登場した。修道士の生活をしていただけあって極めて真面目で常に自分に悩んでいて、なんとなくオーケストラに馴染めない風だったため、なにかと声掛けをした。「久しぶりに自転車に乗っているような気分で我ながらぎこちなくて緊張しています」と言っていた。たしかにベートーヴェンの交響曲第8番は聴いていて肩が凝るほど四角四面だった。しかし、共演したハーモニカ奏者の崎元讓氏はぴったり合います、と喜んでいて。

(竹津宣男)

札幌くらぶ ML 開設 & 登録アドレス募集

5月に会員同士の情報交換、交流の場として、札幌くらぶからのお知らせ用として、会員専用のメーリングリスト（「ML」と略されていることが多い。以下省略。）を設置しました。

すでにコンサートなどのお知らせで会員の方々にご利用いただいているところです。

MLとは、電子メールの利用のひとつで、通常のメールのやり取りは特定の相手との1対1ですが、あるメールアドレスに複数のメー

ルアドレスを登録して、そのメールアドレスに送信すると登録されているメールアドレス全員に同時に配信され、返信した場合にも登録されているメールアドレス全員に配信される1対複数の電子メールの利用法で、情報交換や交流の方法としてよく利用され、登録されているメールアドレス以外は利用できないようになっています。

札幌くらぶでは、このMLを会員同士の情報交換、交流の場として多くの会員の方々に活発に利

用していただきたいと思っています。

今回、MLに新たにメールアドレスを登録される会員を募集いたしますので、次のメールアドレスに「MLに登録希望」と題名を入力し、通信欄に会員番号、氏名を入力して送信してください。

info@sakkyoclub.net

受信確認後、MLに登録し、利用方法を返信いたします。

多くの会員の方々が登録されることを願っております。

スタッフの活動報告（平成22年6月～9月）

●第3回札響くらぶ運営会議

6月4日（水）18：00～
コンサートホール第2会議室
担当：武藤事務局長、12名参加
Xmas パーティー、茶話会、練習見学会、JOFC 名古屋、会報51号、札響くらぶコンサートなどについて協議

●第3回コンサート検討会議

6月22日（火）18：30～
L プラザ2F 消費者サロン
担当：西川副会長、9名参加
指揮者、演奏曲選定について協議

●会報「札響くらぶ」第51号発送作業

6月30日（水）16：00～
コンサートホール第2会議室
担当：武藤事務局長、6名参加
会員、札響、寄贈合せて710部発送

●第4回札響くらぶ運営会議

6月30日（水）18：00～
コンサートホール第2会議室
担当：武藤事務局長、9名参加
札響くらぶコンサート演奏曲等、茶話会の試行、会報第51号の編集結果について協議

●コンサート検討会議（第4回）

7月12日（火）18：30～
エルプラザ4F 男女参画研究室2番
担当：西川副会長、6名参加
チケットの販売方法について協議、結論は次回会議とする。

●HP リニューアル打合せ

7月26日（月）17：20～
エルプラザ2F フリースペース
武藤、深井、村上佳の3名
HP リニューアル構成確認、デザイン作成などについて協議

●コンサート検討会議（第5回）

7月26日（月）18：30～
エルプラザ4F 男女参画研究室2番
担当：西川副会長、11名参加
チケットの販売方法について協議

●第5回札響くらぶ運営会議

7月29日（木）18：30～
コンサートホール第1会議室
担当：武藤事務局長、10名参加
札響くらぶコンサート検討会議でのチケット販売の経過報告、会報第52号の掲載記事について協議

●コンサート検討会議（第6回）

8月9日（月）18：30～
エルプラザ2F 消費者サロン2番
担当：西川副会長、10名参加
チケット団体販売、実行委員会体制、尾高監督への提案内容について協議

●高橋諭静岡芸術大学院生取材

8月18日（水）10：30～14：00
サンローゼすすきの店
担当：武藤事務局長
オーケストラとファンクラブの関係を研究、卒論をまとめるに当たり、札響くらぶを取材のため来札、対応する。

●会長と尾高監督のコンサート打合せ

8月25日（水）12：20～13：00
札幌市長室
上田会長、尾高音楽監督、西川副会長、西村専務、宮下事業部次長、武藤、中川
札響くらぶコンサートの方向、演奏曲・構成案、事務局・ユニオンへのお願いなどを提案、協議す

る。

●コンサート検討会議（第7回）

8月25日（水）18：30～
エルプラザ2F フリースペース
担当：西川副会長、8名参加
会長と尾高監督のコンサート打合せ内容について報告

●JOFC 名古屋総会等参加

9月4日（土）13：00～
NHK 名古屋センター、名古屋観光ホテルほか
西川副会長ほか9名
総会で会則改正案説明、活動報告、懇親会で会長メッセージ代読などを行う。

●コンサート検討会議（第8回）

9月10日（水）18：30～
エルプラザ2F 消費者サロン2号
担当：西川副会長、8名参加
コンサート実行体制の決定、会報号外の発行、中学生・留学生の招待の仕組み等を検討

●茶話会試行

9月18日（水）17：30～
ホテルライフォート札幌1階レストラン「カランドリエ」
担当：事務局長、10名参加
予定のキタラレストランを確保できず、場所を変えて試行

●Kitara・ファーストコンサート見学

9月27日（月）13：45～
キタラ大ホール
担当：事務局長、スタッフ10名参加
札響くらぶが政策提案、実現したコンサート。その内容を知るため見学。

意見・感想をお寄せ下さい

会員の皆さんからの投稿をお待ちします。交流会や札響演奏会の感想、クラシック音楽に関する事など特に内容は問いません。この会報に関するご意見・ご要望をいただくと嬉しく思います。また、23年度の『第9回札響くらぶコンサート』についてのご意見もお寄せください。投稿の期限はありません。

せんが、11月30日までに投稿してください。くださった方の中から、抽選でプレゼントを差し上げます。なお、当選は賞品の発送をもってかえさせていただきます。

投稿は、ハガキ、封書又はEメールで、住所・氏名・会員番号（以上必須事項）・電話番号等連絡先を書き、「札響くらぶ事務

局」宛お送りください。

なお、匿名希望の方は、「匿名希望」又は「ペンネーム」をお書きください。（あて先は1ページ目のタイトル下にあります。）

<今回のプレゼント賞品>

12月の札響定期演奏会のS席チケット 3名様限定（座席の指定はできません。）

第533回札幌定期演奏会 ゲネプロ見学会のご案内

練習見学会の一環として計画しておりました初めてのゲネプロ見学会を、札幌の協力で次のとおり実施いたしますので、ご案内申し上げます。

参加申込は、同封の申込ハガキ（切手不要、クリスマスパーティー参加申込書と同一）で、11月10日必着でお申し込みください。

ゲネプロとは、本番と同じように行う練習のことです。

第533回札幌定期演奏会

オールシベリウス

アンダンテ・フェスティヴァーヴォ

ヴァイオリン協奏曲ニ短調 op. 47

交響詩「4つの伝説曲」 op. 22

指揮：尾高忠明

日 時：平成22年11月12日（金）

午後3時～5時

場 所：キタラ大ホール

集合時間：午後2時30分

集合場所：札幌事務局前

会員数の状況（9月末現在）

会 員 数	4 6 3名
6～9月までの入会者数	6名
6～9月までの退会者数	12名

札幌くらぶ X'mas パーティー のご案内

恒例になりました札幌くらぶ主催の X'mas パーティを、今年も12月の定期公演 B 日程終了後に行ないます。昨年は総勢40名余りの参加があり、団員さんとの交流やゲームなどおおいに盛り上がりしました。いつもはステージ上で真剣な表情で演奏している姿しか目にしていない団員さんと身近にお話できることは、札幌のファンとしては最大の喜びではないでしょうか。

昨年参加された方から「親しいお友達のパーティに来ているような雰囲気」「憧れの団員さんと身近にお話できた」「団員さんとツーショットで写真をとってもらった」「久しぶりのビンゴ大会で盛り上がった！」「定期でよく顔を見かける方と親しくお話できた」など嬉しい感想がたくさん寄せられています。この機会に、私たちファンくらのメンバーの交流もさらに深めたいと思っていますので、どうぞたくさんの方々の参加をお待ちしております。くらぶ会員以外の方の参加もできますので、お友達や家族の方を誘ってみてはどうでしょうか。

日 時：平成22年12月11日（土）午後5時30分～

場 所：札幌コンサートホール2階大会議室

参加費：会員お1人500円・会員外お1人1000円

（軽食・おつまみ・飲みもの等）

※詳しくは同封のチラシをご覧ください。

年会費の納入はお済ですか

年会費の納入を忘れていませんか。今一度ご確認ください。

年会費は、札幌くらぶの運営と楽譜支援金にあてられております。また、年会費納入の際に、任意での追加楽譜支援金も併せて募集しておりますので、納入の際、よろしくご検討をお願いいたします。

年会費の納入方法は、預金口座自動振替が便利ですのでぜひご利用ください。ご希望の方は、

電話、ファックス：011-563-6460

メール：info@sakkyoclub.net

でお申込みください。口座振替依頼書をお送りいたします。

上記のほかに、定期演奏会、名曲シリーズの会場の「札幌くらぶサービスカウンター」でも受け付けておりますので、お気軽にお申し付けください。

編集後記

38度の名古屋。札幌も34度があっただけ暑さの種類が違うような気が。札幌で良かった！（み）

初めて会報に原稿を提出しましたが、文章が書けなくて書けなくて苦労しました。（村上）
記事は体験したら思いつくまますぐ書く。後で表現や文体を整える。これが秘訣と知った。

(M)
紅葉もはじまり秋だなあと感じる今日この頃。みなさん風邪を引いて演奏会にいけなかった…なんて悲しいことにならないようにご自愛ください。（華）